

令和 4 年度
全国学力・学習状況調査

解説資料

児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた
学習指導の改善・充実に向けて

中学校 国語



令和4年4月
国立教育政策研究所
教育課程研究センター

目 次

令和4年度 全国学力・学習状況調査 解説資料について	1
I 中学校国語科の調査問題作成に当たって	5
II 調査問題一覧表	9
III 調査問題の解説（出題の趣旨，解説，解答類型等）	11
① スピーチをする（「最近気になったこと」）	12
② 意見文を書く（「先端技術との関わり方」）	19
③ 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）	28
④ 書写	35
IV 解答用紙（正答（例））	41
V 点字問題（抜粋）	45
VI 拡大文字問題（抜粋）	53

令和4年度 全国学力・学習状況調査 解説資料について

◆ 目的

本資料は、令和4年度全国学力・学習状況調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したものです。

◆ 特徴

「教科に関する調査」の各問題について、学習指導の改善・充実を図るための情報を盛り込んでいます。

「教科に関する調査」の各問題について、出題の趣旨、学習指導要領における内容、解答類型、正答や予想される解答の解説、学習指導の改善・充実を図るための情報等を記述しています。

全ての先生が、学習指導の改善・充実に活用できるものを目指して作成しています。

本調査は、小学校においては第5学年まで、中学校においては第2学年までに、十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題していますので、調査の対象学年だけではなく、全学年を通じた学習指導の改善・充実を図るための参考とすることができます。各問題の「学習指導要領における内容」には、該当する学年を示していますので、学校全体で組織的・継続的な取組を展開する際に活用できます。

調査実施後、すぐに活用できるように作成しています。

調査結果が出る前の段階から、調査問題を日々の学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成しています。

※調査結果を公表する際、調査結果から見られた課題の有無や誤答の分析、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を示した「報告書」を作成します。

一人一人のつまずきが見えるように「解答類型」を設けています。

本調査では、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理した「解答類型」を設けています。

「解答類型について」で、つまずきの分析ができるように解答類型の説明をしています。正誤だけではなく、一人一人の解答の状況（どこでつまずいているのか）等に着目して、学習指導の改善・充実を図ることができます。

関連する過去の資料も活用できるように作成しています。

関連する過去の調査の解説資料や報告書等の該当ページも記載しています。

学習指導の改善・充実を図る際は、これらの資料も併せて活用すると一層効果的です。

※過去の解説資料・報告書等は、国立教育政策研究所のウェブサイトで見ることができます。

(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)



◆ 本資料の活用に当たって

I 調査問題作成に当たって

調査問題作成の基本理念、調査問題作成の枠組みについて解説しています。

II 調査問題一覧表

問題の概要、出題の趣旨、関係する学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式を一覧表にまとめています。

Ⅲ 調査問題の解説

調査問題について、出題の趣旨、解説（学習指導要領における内容、解答類型）等を記述しています。（問題によっては、記述のない項目もあります。）

調査問題を縮小して掲載しています。
※著作権の都合により一部を省略しているものもあります。

1. 出題の趣旨

問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などについて記述しています。

2. 解説

趣旨

問題ごとの出題の意図、把握しようとする力などを示しています。

■学習指導要領における内容

調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における内容を示しています。

■評価の観点

問題に関する評価の観点を示しています。

解答類型（下欄の*を参照）

児童生徒一人一人の解答状況を把握することができるように、問題における解答類型を示しています。

※図はイメージです。

教科名

問題画像

1. 出題の趣旨

.....
.....

2. 解説

設定

趣旨

.....

■学習指導要領における内容
【第○学年】

■評価の観点

解答類型

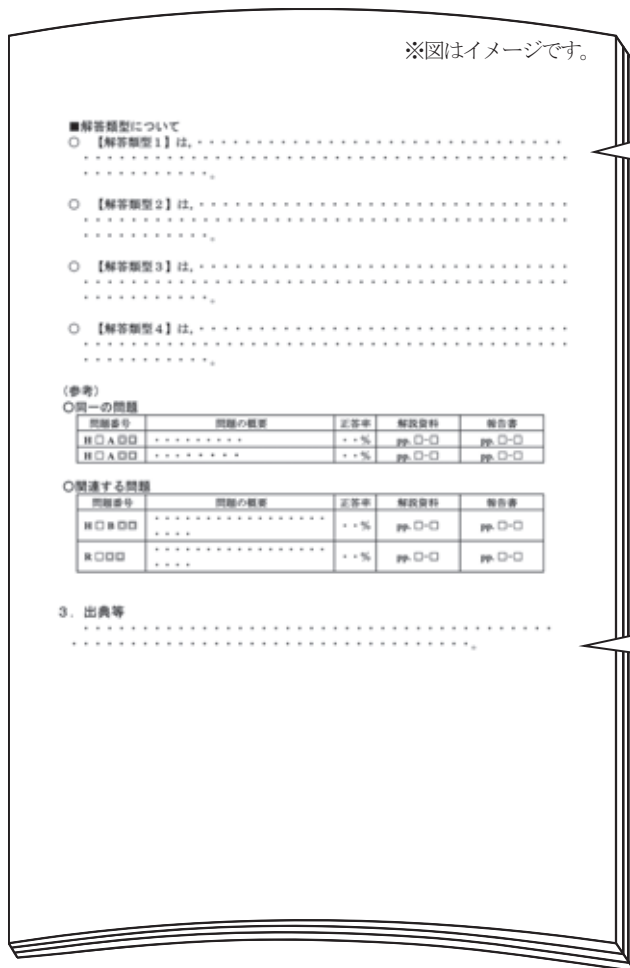
問題番号	解答類型	正答
<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> 1.	<input checked="" type="radio"/>
	<input type="radio"/> 2.	
	<input type="radio"/> 3.	
	<input type="radio"/> 4.	
	<input type="radio"/> 99 上記以外の解答	
	<input type="radio"/> 0 無解答	

* 児童生徒一人一人の解答状況を把握するために

<解答類型> 児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。解答例を示すとともに、「解答類型について」の解説を加えていますので、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答> 「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答
「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

<類型番号> 類型 1～38（最大）… 正答・予想される解答
（複数の類型が正答となる問題もある）
類型 99 … 「上記以外の解答」
（類型 1～38 までに含まれない解答）
類型 0 … 「無解答」（解答の記入のないもの）



■解答類型について
 予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等を記述しています。

(参考)
 過去の関連する問題，解説資料，報告書等を記載しています。
 ※平成 25 年度から令和 3 年度の調査問題は，学習指導要領（平成 20 年告示）の目標及び内容に基づき作成されています。

3. 出典等
 著作物からの出題の場合に，出典及び著作権者等について示しています。また，問題作成に当たって参考としたものについても示しています。

IV 解答用紙（正答（例））

調査問題の解答用紙に正答（例）を記述したものを掲載しています。

V 点字問題（抜粋）

点字問題の一部を，当該問題の解答類型及び作成に当たって配慮した点などとともに掲載しています。

VI 拡大文字問題（抜粋）

拡大文字問題の一部を，当該問題の通常問題及び作成に当たって配慮した点などとともに掲載しています。

※本資料では，以下の資料については略称を用いています。

資料	略称
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「令和○年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 ○学校 ○○」	「令和○年度【○学校】解説資料」
「令和○年度 全国学力・学習状況調査 報告書 ○学校 ○○」	「令和○年度【○学校】報告書」

※学習指導要領実施状況調査等は，国立教育政策研究所ウェブサイトで見ることができます。

(https://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div08-katei.html)



I 中学校国語科の調査問題作成に当たって

中学校国語科の調査問題作成に当たって

1 調査問題作成の基本理念について

「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」（平成29年3月）では、「全国学力・学習状況調査の調査問題については、新しい学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、それを教育委員会や学校に対して、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討を進める。」としている。

平成29年3月に公示された中学校学習指導要領（平成29年告示。以下「学習指導要領」という。）は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。

平成31年度（令和元年度）以降の調査問題では、こうした学習指導要領の考え方への各教育委員会や各学校の理解を促すため、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理を見直して、一体的に調査問題を構成することとした。

なお、「全国的な学力調査の具体的な実施方法等について（報告）」（平成18年4月）では、具体的な調査問題の作成に当たって、「調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員による指導改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つとの視点が重要である」としていることにも留意する必要がある。

以上の点等を踏まえ、本調査の調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示された国語科の目標及び内容等に基づいて作成することを基本とした。

2 調査問題作成の枠組み

（1）学習指導要領の内容と評価の観点について

学習指導要領に示されている以下の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを精選した。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

〔知識及び技能〕

- (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2)情報の扱い方に関する事項
- (3)我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

- A話すこと・聞くこと
- B書くこと
- C読むこと

※ 「A話すこと・聞くこと」については、生徒が実際に話したり聞いたりするような調査を行うことが難しいため、場面設定・状況設定などを工夫して、話す・聞く活動にできるだけ近づけた出題となるようにした。

また、評価の観点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」に関わるものを出題した。

（2）問題形式について

問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類としている。記述式の問題では、複数の考え方、答え方があるものなどについて出題している。

◆ 点字問題，拡大文字問題，ルビ振り問題の作成について

本調査では，視覚障害等のある児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒等に配慮した調査問題（点字問題，拡大文字問題，ルビ振り問題）を作成している。

点字問題では，全体を点訳するとともに，点字による図版等の認知に伴う負担等を考慮し，図版等の情報の精査（グラフを表にしたり，記述による説明に替えたりするなど）を行ったり，出題の趣旨を踏まえつつ代替問題を作成したりするなどの配慮を行っている。

拡大文字問題では，対象となる児童生徒の見え方やそれに伴う負担等を考慮し，文字や図版等を拡大するとともに，文字のフォントや図版等の線の太さ・濃さ，コントラスト，レイアウト等を変更するなどの配慮を行っている。

II 調查問題一覽表

調査問題一覧表【中学校国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C							
			関言葉の特徴や使い方に	関情報の扱い方に	関我が国の言語文化に	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
1	一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す				1ウ				○			○		
	二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する				2エ				○			○		
	三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	1ア			1ウ			○	○					○
2	一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	2オ							○			○		
	二①	漢字を書く(のぞく)	2ウ							○				○	
	二②	漢字を書く(よろこんで)	2ウ							○				○	
	三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える		1イ			1ウ			○	○				○
3	一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	1オ							○				○	
	二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	1ウ							○			○		
	三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える						1イ		○				○	
	四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く						1ウ		○					○
4	一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する			1エ(イ)					○			○		
	二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する			2ウ(フ)					○			○		
	三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する			2ウ(フ)					○			○		

Ⅲ 調査問題の解説

（出題の趣旨，解説，解答類型等）

国語 1 スピーチをする（「最近気になったこと」）

1 川口さんは、国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに伝えて助言をもらっています。次の川口さんのスピーチと二人の会話の「一部」を抜き、あとの問いに答えなさい。

川口さんのスピーチ

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利を実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと感じています。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことがあります。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

この言葉を聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったので、これからは、オンラインで人話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思っています。

二人の会話の一部



田中 こので動画を止めてもええですか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあります。この後のスピーチの内容に興味をもつことができただけではないと思います。川口 ありがとうございます。

川口 オンラインでインタビューをしたときのことを入れましたか。どうでしょうか。
田中 身なな内容で共感できました。始めに話したところとつながっている点が良いと思います。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているので、言葉の抑揚や強調、問の取り方などの話し方を工夫してみてもどうでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもちってもらうために、ゆっくり大きな声で話すとか、いいでしょうか。
川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

一 川口さんは、二人の会話の「一部」の「①呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか」という田中さんからの助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分に言葉を加えて話すことにしました。あなたならどのように直しますか。裏紙に話すように書きなさい。

二 「二人の会話の一部」で田中さんは「①最初に話したことつながっている点が良い」と述べていますが、これを具体的に説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 インターネットの「便利を実感」しているこの例として、総合的な学習の時間で自分の経験を挙げている点が良い。
- 2 インターネットの「便利を実感」としているこの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。
- 3 「やりとりをスムーズに行いにくい」というこの例として、総合的な学習の時間で自分の経験を挙げている点が良い。
- 4 「やりとりをスムーズに行いにくい」というこの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。

三 「二人の会話の一部」に「他の部分も話し方を工夫してみます」とありますが、あなたならどの部分をものようにならして話しませんか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

- 条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をものようにならして話しませんか。話し方を工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強調、問の取り方をのようにならして具体的に書くこと。
- 条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

申左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--

1. 出題の趣旨

- ・ 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること
- ・ 論理の展開などに注意して聞くこと
- ・ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと

「A話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項は、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」に共通する指導事項である。指導計画の作成に当たっては、「A話すこと・聞くこと」の学習は、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であり、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連があることに留意する必要がある。

スピーチなどの言語活動を行う際には、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切である。また、聞き手のうなずきや表情にも注意し、話の受け止め方や理解の状況を捉え、聞き手に自分の考えが十分伝わっていないと感じられたときには、分かりやすい語句に言い換えたり内容を補足したりすることも重要である。聞き手は、話の展開に注意しながら内容を聞き取り、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりすることが大切である。

本問では、自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面を設定した。聞き手を引き付けるような表現になるようにスピーチの内容を直したり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方について考えたりすることに加え、スピーチについて聞き手がどのように受け止めているかについて考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

2. 解説

設問一

趣旨

聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現、共有（話すこと）》

■評価の観点

思考・判断・表現

解答類型

問題番号	解答類型	正答	
①	—	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかが分かるように書いている。 ② 実際に話すように書いている。	
		(正答例) ・ 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。 ・ 最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。皆さんもそう思いませんか。	
	1	条件①, ②を満たして解答しているもの	◎
	2	条件①を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	
	3	条件②を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
0	無解答		

■解答類型について

- 【解答類型1】は、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができる。【二人の会話の一部】にある田中さんの「呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか」という助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分にどのような言葉を加えて直すかについて考え、実際に話すように適切に書いている。

- 【解答類型2】は、実際に話すように表現することに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 「皆さん」と呼びかけてから話し始めたり、最後に「感じませんか」と問いかけたりするとよいと思う。

- 【解答類型3】は、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかについて考えることに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 私は、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。

設問二

趣旨

論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

- 〔第2学年〕 思考力, 判断力, 表現力等 A 話すこと・聞くこと
- エ 論理の展開などに注意して聞き, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめること。 《構造と内容の把握, 精査・解釈, 考えの形成, 共有(聞くこと)》

■評価の観点

思考・判断・表現

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
①	二	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

○ 【解答類型1, 2, 4】は, 論理の展開などに注意し, 話全体がどのようにまとめられようとしているかを考えることに課題がある。

- ・ 選択肢1, 2については, 川口さんがインターネットの「便利さを実感」していることを述べた後で, 「一方で, 相手と直接会っていないので, やりとりをスムーズに行いにくい」と述べていることを捉えることができていないものと考えられる。
- ・ 選択肢4については, 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということと, 「私は, 相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」という友達の言葉との関係を適切に捉えることができていないものと考えられる。

○ 【解答類型3】は, 論理の展開などに注意して聞くことができています。川口さんは, 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例として, 総合的な学習の時間で, 離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューしたときの経験を話している。

設問三

趣旨

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ア 音声の働きや仕組みについて, 理解を深めること。 《話し言葉と書き言葉》

〔第1学年〕 思考力, 判断力, 表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 相手の反応を踏まえながら, 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現, 共有(話すこと)》

■評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

解答類型

問題番号	解答類型	正答	
①	三	(正答の条件) ① 【川口さんのスピーチ】の中から、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分以外を具体的に挙げて書いている。 ② ①で挙げた部分をどのように工夫して話すのかについて、以下のa, bの両方またはいずれかに着目して具体的に書いている。 a 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方など音声での表現の仕方に着目した工夫。 b 視線の方向など, a以外の話し方の工夫。 ③ ②のように話す意図を書いている。 (正答例) ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。(解答類型1) ・ 私は、自分が一番伝えたいことに着目してもらうために、「この言葉を聞いてはっとしました。」のあとに少し間を取ります。(解答類型1) ・ 「相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていない」という部分の語調を強めて、課題だと感じていることを強調したい。(解答類型1) ・ 「やりとりをスムーズに行にくいという面もある」の部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながらか話す。(解答類型2)	
	1	条件①, ②a, ③を満たして解答しているもの * ②bを同時に満たして解答しているものを含む。	◎
	2	条件①, ②b, ③を満たして解答しているもの	◎
	3	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの	
	4	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	
	5	条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
	0	無解答	

■解答類型について

○ 本設問では、「スピーチの冒頭から同じ調子で話しているのだから、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみてください」という田中さんの助言を踏まえ、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をする」という部分以外を挙げて、どのように工夫して話すのかを、意図とともに考えることを求めている。

【解答類型1】は、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる。【川口さんのスピーチ】の中から、工夫したい部分を挙げて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、音声での表現に着目した話し方の工夫を具体的に示すと同時に、そのように話す意図を明確にすることができる。

○ 【解答類型2】は、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる。【川口さんのスピーチ】の中から、工夫したい部分を挙げて、音声での表現以外の話し方の工夫を具体的に示すと同時に、そのように話す意図を明確にすることができる。

- 【解答類型3】は、話し方を工夫する意図を明確にすることに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分をゆっくり大きな声で話す。

- 【解答類型4】は、具体的な話し方の工夫について考えることに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ スピーチの内容に興味をもってもらいたいので、「一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと思います。」という部分を工夫して話します。

- 【解答類型5】は、工夫して話す部分を具体的に取り上げることに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 自分の考えを伝えることが大切だと思うので、大きな声で話したい。

国語 2 意見文を書く（「先端技術との関わり方」）

2 小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文書作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達が書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて集めた【農林水産省のウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なることが増えてよいと感じるが、目的に応じて選択して活用することが大切だと思う。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農地を二人で管理している祖父母に、スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父母は、今年に入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化した。そのおかげで、農地を耕したり種をまいたりすることに加え、草を取りのぞく作業も効率よく進むようになったという。負担が軽減したことをよろこんでいる祖父母に、他に取り入れているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、他には取り入れていない。」とのことだった。スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。

しかし、祖父母は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちも意識しなければならないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父母のように、目的に応じて選択しながら先端技術を活用していきたい。

【コメントの一部】

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「^(注1)ロボット、^(注2)AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

➡「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野における^{ソサエティ}Society5.0®の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用
^(注3)ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

(農林水産省ウェブページによる。)

(注1) AI=人工知能。

(注2) IoT (アイオーティー) =自動車や電化製品などの様々なものがインターネットに接続されているシステム。

(注3) センシングデータ=センサーを利用して計測・判別し、収集した情報。

- 一 小林さんは、「意見文の下書き」の〆〆〆〆線部の文末を「自動化したそうだ」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 祖父母が否定している内容であることを明確にしようとした。
 - 2 祖父母の話から推測した内容であることを明確にしようとした。
 - 3 祖父母が希望している内容であることを明確にしようとした。
 - 4 祖父母から聞いた内容であることを明確にしようとした。

二 〆〆線部①と〆〆線部②のひらがなを漢字に直し、楷書かぎしよでていねいに書きなさい。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書く

こと。引用する部分は、かきかっこ「」でくくること。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

例えば、

1. 出題の趣旨

- ・ 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと
- ・ 文脈に即して漢字を正しく書くこと
- ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

「B書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。その際、生徒の実態等に即して、〔知識及び技能〕に示された各指導事項との関連を図ることも重要である。

意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。また、分かりやすい文章にするために、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことも大切である。その際、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言などをすることが重要である。

本問では、文書作成ソフトを使って意見文の下書きを書く場面を設定した。文末を直す意図について考えたり、文脈に即して漢字を正しく書いたりするとともに、考えの根拠が明確になるように、資料から必要な情報を引用して書き加えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

2. 解説

設問一

趣旨

助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。《文や文章》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答	
②	—	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1～3】は、助動詞「そうだ」の働きについて理解し、目的に応じて使うことに課題がある。「祖父母は、今年に入ってからロボットトラクタを導入し、作業の一部を自動化したそうだ。」の「そうだ」が伝聞の意味を表すことを理解していないものと考えられる。
- 【解答類型4】は、助動詞「そうだ」の働きについて理解し、目的に応じて使うことができている。

設問二

趣旨

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 《漢字》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号	解 答 類 型		正答	
②	①	1	「除(く)」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	②	1	「喜(んで)」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- ① 【解答類型1】は、「のぞ(く)」を文脈に即して漢字で正しく書くことができる。「除」は、小学校第6学年の配当漢字である。
- ② 【解答類型1】は、「よろこ(んで)」を文脈に即して漢字で正しく書くことができる。「喜」は、小学校第5学年の配当漢字である。

設問三

趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。 《情報の整理》

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

《考えの形成、記述》

■評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

解答類型

問題番号	解答類型	正答	
②	三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いている。 ② 引用部分をかぎかっこ(「 」)でくくって書いている。 ③ 「例えば,」に適切に続くように書いている。	
		(正答例) ・ (例えば,) 農林水産省のウェブページにある資料には, 作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。 ・ (例えば,) 農林水産省の資料によると, 「作業の記録をデジタル化・自動化し, 熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に」なったり, 「農作物の生育や病虫害を予測し, 高度な農業経営が可能に」なったりすることが示されている。 ・ (例えば,) 資料には, 「熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能」な「情報共有の簡易化」なども効果として挙げられている。	
	1	条件①, ②, ③を満たして解答しているもの	◎
	2	条件①, ②を満たし, 条件③を満たさないで解答しているもの	
	3	条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	
	4	条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
0	無解答		

■解答類型について

- 【解答類型1】は, 自分の考えが伝わる文章になるように, 根拠を明確にして書くことができている。【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から, スマート農業の効果として適切な情報を抜き出し, 引用部分をかぎかっこ(「 」)でくくるとともに, 「例えば,」に適切に続くように書いている。
- 【解答類型2】は, 文と文とのつながりを考えて, 適切に書くことに課題がある。ここでは, 「スマート農業には, 作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。例えば,」に適切に続くように書く必要がある。具体的な例としては, 以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ (例えば,) 「スマート農業について」「情報共有の簡易化」「データの活用」

- 【解答類型3】は, 引用部分を明らかにすることに課題がある。具体的な例としては, 以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ (例えば,) 情報共有が簡易化されたり, 様々なデータを活用することができたりする。

- 【解答類型4】は、自分の考えが伝わる文章になるように、適切な情報を抜き出して書くことに課題がある。ここでは、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から「作業を自動化すること」以外の効果を抜き出す必要がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ (例えば、) 農林水産省の資料には、「スマホ」や「ドローン」などが挙げられている。

(参考)

○関連する問題

【小学校】

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H31 ¹ 三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の <input type="text"/> に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	28.9%	pp.12-23	pp.20-37

1 高橋さんの手紙では、生活の中で忙になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある【報告する文章】です。これをよく読んで、おどの問いに答えてください。

【報告する文章】

公衆電話について

1 はじめに 高橋 めぐみ
先日外出したときに、家に電話をかけたよう近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こまづてしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが【資料1】です。平成二十年及び二十九年までの十年間で、約半分まで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査の予定として、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが【資料2】です。「けいたい電話をわたしたきに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような資料を調べると、公衆電話には、次のような使い方がありました。硬貨やテレホンカードがなくても通話することができます。
・ 硬貨のときも、硬貨を使って通話することができます。
・ 電話が混み合っているときも、優先的に通話することができます。
このように、公衆電話は、きん息のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
公衆電話が必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを調べて知ることが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが【資料3】です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

3 調査の結果をもとに考えたこと
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと考えました。今回の調査を通して知ったことを、学校の友達にイがせらる多くの友達に伝え、公衆電話について、わたしたちをもっともらいたいと思います。

【資料1】
公衆電話設置台数の移り変わり

年	設置台数
1990	300
1991	280
1992	260
1993	240
1994	220
1995	200
1996	180
1997	160
1998	140
1999	120
2000	100

【資料2】
公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

理由	人数
けいたい電話をわたしたきに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	14人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

【資料3】
公衆電話の設置場所を示した地図

一 (略)

二 (略)

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。 に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※ ①の縦線は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。②の中から書きましょう。どちらかで行文を完成させて、続けて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。

なぜなら、

40字

3. 出典等

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】は，農林水産省ウェブページによる。

国語 ③ 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

③ 次の文章は、「こどもの目浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔著者：藤村・田代百合子〕「俳句でつくる小説工房」による。

(注1) 詳細は向き合って立つこと、はらみ合って対立すること。
 (注2) 想像力たるや想像力といったら。

【国語教科書・国語教科書】国語教科書つづくる小島正徳「国」による

一 — 読者の「陽気な目に揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい(漢字、ひらがなのどちらでもよい)。
 また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ~~~~~読者の「ただ、と、おれは思う。」
- 2 ~~~~~読者の「プルシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で読む人」
- 3 ~~~~~読者の「顔のように素早く手を出し」
- 4 ~~~~~読者の「もっとも」と前の話だと説明する。」

二 — 読者の「途方に暮れた」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 どうしてよいか分からなくなった
- 2 同じことを繰り返していた
- 3 なつかしくなった
- 4 夜になったことに気が付いた

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に答えて替えるようにしましょう。A、B、Cを適切に答えて替えて書きなさい。

- A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
- B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙なつかしさにこわれる。
- C 息子への申し訳なさを暮らせつつ、目の前の息子を頼りなく思う。

四 — 読者の「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間を書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--

1. 出題の趣旨

- ・ 表現の技法について理解すること
- ・ 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- ・ 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈すること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。その際、生徒の日常の読書活動に結び付くようにすることも重要である。

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。

本問では、俳句から想像を広げることで生まれた「都会のビーチ」という作品を取り上げた。話の展開に沿って登場人物の行動や心情について捉えたり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の心情について考えたりするとともに、文章中に用いられている表現の技法や、登場人物の心情を表す語句について考えることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

2. 解説

設問一

趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。 《表現の技法》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号	解答類型	正答	
3	—	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「比ゆ」、「たとえ」のように解答しているもの。 * 「比喩」、「ひゆ」、「比喩法」、「直喩」などと解答しているものも正答とする。 ② 「陽炎みたいに揺らめきながら」と同じ表現の技法が用いられているものとして3を選んでいる。	
	1	条件①, ②を満たして解答しているもの	◎
	2	条件①を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	
	3	条件②を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
	0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、「比ゆ」という表現の技法について理解している。「陽炎みたいに揺らめきながら」に用いられている表現の技法の名称は「比ゆ」である。また、それと同じ表現の技法が用いられているものは、選択肢3の「猫のように素早く手を出し」である。
- 【解答類型2】は、「陽炎みたいに揺らめきながら」に用いられている表現の技法の名称が「比ゆ」であることは理解しているが、「猫のように素早く手を出し」にも同じ表現の技法が用いられていることを捉えることに課題がある。
- 【解答類型3】は、「陽炎みたいに揺らめきながら」と「猫のように素早く手を出し」に同じ表現の技法が用いられていることは理解しているが、「比ゆ」という言葉と結び付けて表現の技法を理解することに課題がある。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H24A 3二	「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現の技法の名称を書く	43.0%	pp.18-21	pp.133-137

設問二

趣旨

事象や行為, 心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

[第1学年] 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為, 心情を表す語句の量を増すとともに, 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにすること。
《語彙》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
3	二	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、「途方に暮れる」という語句の意味について理解している。「途方に暮れる」は「どうしてよいか分からなくなる」、「手段が見いだせず困る」などの意味をもつ。
- 【解答類型2～4】は、「途方に暮れる」という語句の意味の理解に課題がある。「途方に暮れる」という言葉になじみがなく、意味が理解できていないものと考えられる。また、「途方に暮れる」という言葉がもつ意味ではなく、昼間思い出した「幼いころの海での記憶」が間違いではないことを確かめたい「おれ」と、そんな事実はないと言い張る「母」との押し問答の様子から、選択肢2～4のような意味だと捉えたものとも考えられる。

設問三

趣旨

場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。
《構造と内容の把握》

■評価の観点

思考・判断・表現

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
3	三	1	A→B→Cと解答しているもの	
		2	A→C→Bと解答しているもの	
		3	B→A→Cと解答しているもの	
		4	B→C→Aと解答しているもの	◎
		5	C→A→Bと解答しているもの	
		6	C→B→Aと解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1～3, 5, 6】は、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。「都会のビーチ」の話の展開を確かめながら、A～Cの順番を整理することができていないものと考えられる。
- 【解答類型4】は、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができている。本文の21行目から26行目にかけて、Bの「息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙ななつかしさにとらわれ」た「おれ」の様子が書かれている。次に、本文の56行目から62行目にかけて、Cの「息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う」気持ちも芽生える「おれ」の様子が書かれており、本文の66行目から79行目にかけて、Aの「昔のことについて、母と電話で押し問答を」続ける「おれ」の様子が書かれている。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H28B 3-	物語の展開に沿って巳之助の様子を並べ替える	71.6%	pp.67-72	pp.75-80

設問四

趣旨

場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

- 〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
 - ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 《精査・解釈》

■評価の観点

思考・判断・表現

解答類型

問題番号	解答類型	正答	
3	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかを適切に書いている。 ② ①について、話の展開を取り上げて書いている。	
		(正答例) ・ 公園の噴水の広場で海にいるかのように遊ぶ「息子」と同じように、子供の頃の自分も想像力を働かせ、公園の水辺に海を見いだしていたこと。 ・ 息子は公園にある噴水の広場の水辺に自分なりの景色を見いだしているようだったが、子供の頃の自分も公園の水辺に海を見いだしていた。 ・ 「おれ」が幼い頃に遊んでいたと思っていた海は、実は公園の水辺だったことを「なるほど」と思った。 ・ 公園の水辺に海を見いだすことができるような子供の想像力の豊かさ。	
	1	条件①, ②を満たして解答しているもの	◎
	2	条件①を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	
	3	条件②を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	
	99	上記以外の解答	
0	無解答		

■解答類型について

- 【解答類型1】は、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができている。「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて適切に書いている。
- 【解答類型2】は、話の展開を取り上げて書くことに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 子供の想像力はすごいということ。

- 【解答類型3】は、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)

- ・ 家のベランダの青いビニールプールでは物足りない様子を見せはじめたので、おれは息子を少し離れたところにある公園に車で連れて行き、噴水の広場で遊ばせたこと。

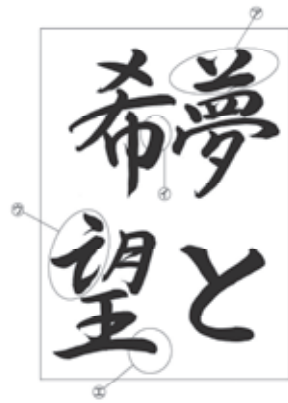
3. 出典等

堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』(2017年10月 双葉社)による。

国語 4 書写

4 竹内さんは、行書で「夢と希望」という文字を書いています。次の「最初に書いた文字」、「友達や先生からの助言」、「書き直した文字」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【最初に書いた文字】



【友達や先生からの助言】

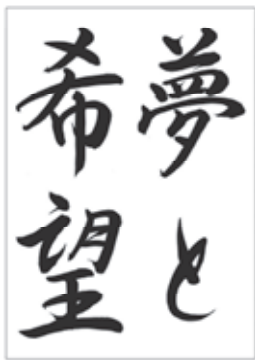
行書の点画の書き方に気を付けて書いてみました。どうでしょうか。



全体的に行書の特徴を踏まえて書くことができています。ただ、漢字のバランスが悪いような気がします。先生、どうでしょうか。



漢字については青山さんの言うとおりですが、ひらがなの「と」についても課題がありそうですね。



【書き直した文字】

一 【最初に書いた文字】について、青山さんは「行書の特徴を踏まえて書くことができています」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 ①の部分は、筆順の変化に気を付けて書くことができています。
- 2 ②の部分は、楷書と同様に点画を直線的に書くことができています。
- 3 ③の部分は、点画を省略して書くことができています。
- 4 ④の部分は、点画を連続して書くことができています。

二 【最初に書いた文字】について、青山さんは「漢字のバランスが悪い」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 画数の多い「夢」が他の文字より小さい。
- 2 画数の少ない「希」が他の文字より大きい。
- 3 「望」について部首と他の部分とが離れすぎている。
- 4 「希」と「望」について行の中心がずれている。

三 【書き直した文字】の「と」の書き方について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 全ての線が直線的になるように意識した書き方。
- 2 線が連続するように意識した書き方。
- 3 漢字より大きくなるように意識した書き方。
- 4 筆圧が一定になるように意識した書き方。

1. 出題の趣旨

- ・ 行書の特徴を理解すること
- ・ 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること
- ・ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること

〔知識及び技能〕の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の「書写」について、中学校では、文字を正確に読みやすく書くことができるという、文字の伝達性を重視した指導が求められる。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、小学校と同様に、書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する必要がある。また、毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことをねらいとしている。そのため、各学年に示されている書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定することが求められる。書写の指導を取り上げて計画する場合には、〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、表現力等〕の指導と関連させた指導計画になるように配慮することが重要である。その際、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を構想することも大切である。

本問では、行書で書いた文字について、よい点や改善点を話し合い、友達や先生からの助言を生かして修正する場面を設定した。行書の特徴を踏まえた書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方などについて考えることを求めている。

2. 解説

設問一

趣旨

行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

《書写》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
4	一	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1】は、行書の特徴について理解している。「夢」は、楷書で書くと「夢」であることを踏まえ、㊦の部分「筆順の変化」であることを捉えることができている。
- 【解答類型2～4】は、行書の特徴についての理解に課題がある。直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びることがあること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わることがあること、点や画が連続したり省略されたりすることがあること、筆順が変わることがあることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
H29A 9六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	63.9%	pp.44-54	pp.54-66
H30A 8五	作品への助言として適切なものを選択する	54.6%	pp.39-53	pp.51-64
R2 1二	行書で書かれた「桜」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	実施せず	pp.12-19	実施せず

設問二

趣旨

漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

[第2学年] 知識及び技能

- (3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

《書写》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
4	二	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型1～3】は、行書で書かれた「希」と「望」について、行の中心がずれていることを捉えることに課題がある。
- 【解答類型4】は、漢字の行書の読みやすい書き方について理解している。漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴以外にも、楷書の場合と同様に、字形、文字の大きさ、文字の配列などに配慮する必要がある。

設問三

趣旨

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。
《書写》

■評価の観点

知識・技能

解答類型

問題番号		解 答 類 型		正答
4	三	1	1と解答しているもの	◎
		2	2と解答しているもの	
		3	3と解答しているもの	
		4	4と解答しているもの	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

■解答類型について

- 【解答類型 1, 3, 4】は、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方の理解に課題がある。【書き直した文字】の「と」は、行書で書かれた漢字と調和するように、線が連続するように意識して書かれていることが理解できていないものと考えられる。

- 【解答類型 2】は、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解している。漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略などといった行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解することが大切である。特に、平仮名は、そうした行書の特徴に調和させやすい特徴をもつが、小学校から身に付けてきた楷書に調和する平仮名の書き方を踏まえ、一層筆脈を意識して書くことが必要である。

IV 解答用紙（正答（例））

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説」の「解答類型」等に記載していますので、学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

■ 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ⑤ 国語 **マモト**

解答欄はウラにもあります。

1

例 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。

二

① ② ● ④

三

例 「オンラインであつても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったので。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。

2

① ② ③ ●

二

① 除 く

② 喜 んで

2 三の答欄は、ウラにあります。

【質問】※解答時間終了後に回答してください。

(1) ① ② ③ (2) ① ② ③ ④

※「組」、「出席番号」は、下の例のように記入し、マーク欄を塗りつぶしてください。
例：1組の場合

組： 1

生徒記入欄	
組	出席番号
1	01
2	02
3	03
4	04
5	05
6	06
7	07
8	08
9	09
男	00
女	05

答欄番号

※ 各設問の正答の条件、他の解答例などについては、「Ⅲ 調査問題の解説」の「解答類型」等に記載していますので、学習指導の改善等に当たってはそちらも御参照ください。

■ 全国学力・学習状況調査 解答(回答)用紙 ⑤ 国語 **ウラ**

解答欄はオモテにもあります。

4

一 ① ② ③ ④

三 ① ② ③ ④

二 ① ② ③ ④

4 **例** 公園の噴水の広場で海にしているかのように遊ぶ「息子」と同じように、子供の頃の自分も想像力を働かせ、公園の水辺に海を見いだしていたこと。

二 ① ② ③ ④

三 B → C → A

3 一 表現の技法 **例** 比喩

一 ① ② ③ ④

三 **例** 例えば、農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

V 点字問題 (抜粹)

点字問題は、通常問題と同様の趣旨・内容で作成している。ただし、点字を使用して学習する児童生徒の情報取得の特性や点字による表現方法等を考慮し、児童生徒が調査問題で問われている内容及び解答に必要な情報を的確に把握し、問題の趣旨に沿った解答に臨むことができるように、例えば、次のような配慮を行っている。

(1) 問題文などの記述及びレイアウト等について

必要に応じて、文章や図表等の記述を変更したり、提示する順序を入れ替えたり、ページ配置を変更したりするなどの調整を行う。

(2) 図やグラフの提示の仕方について

提示する情報の精選を行った上で、表などに置換したり、必要かつ可能なものは点図（点を用いて示した図）で示したりするなど、提示方法の変更・調整を行う。

(3) 出題形式の変更及び代替問題について

児童生徒の学習内容や生活経験等を考慮し、通常問題の内容をそのまま点字化して出題することが適当ではない問題については、出題の趣旨等を踏まえた上で、出題形式の変更や代替問題の作成を行う。

なお、上記のような配慮に伴い、解答種類の調整を行った問題については、pp. 50-52 に問題及び解答類型（点字問題用）を示している。

<点字問題における具体的な配慮例>

【通常問題】

4

【読者の理解】

1. 「夢と希望」の読み方
2. 「夢と希望」の書き方

4
3
2
1

中国 - 18

【読者の理解】

4

先生
藤田さん
竹内さん

中国 - 17

【読者の理解】

4
3
2
1

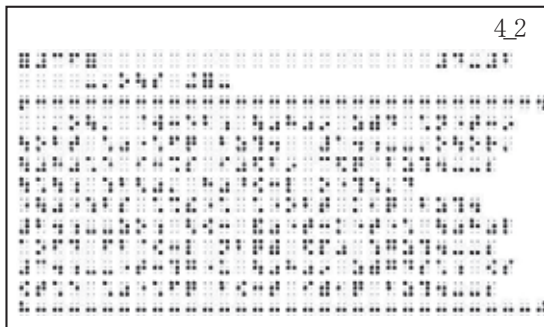
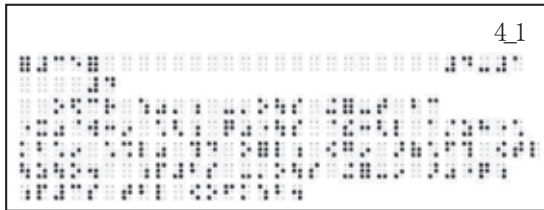
中国 - 19

【点字問題】 4

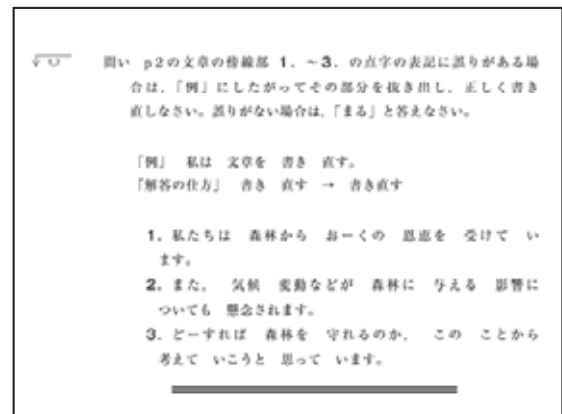
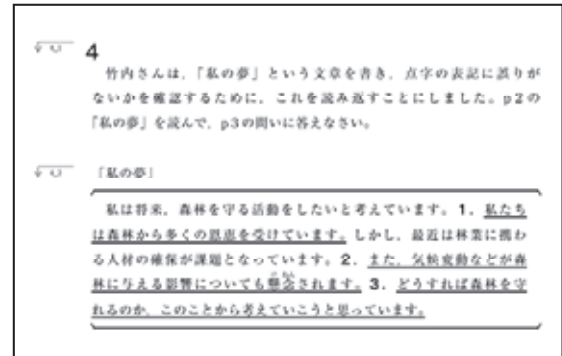
本問では、主に次のような配慮を行った。

- 通常問題では、行書で書いた文字について、よい点や改善点を話し合い、友達や先生からの助言を生かして修正する場面が設定されている。しかし、点字を学習する生徒にとって、行書の特徴を踏まえた書き方や漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方等について理解することは困難である。そのため、点字表記の基本である仮名遣いや分かち書きについて、正しく書き直す問題に変更した。

<点字問題（墨点字版）>



<点字問題（活字版）>



<点字問題において解答類型の変更, 調整等を行った問題>

【点字問題】 2 2.

√ 2.8

2. 傍線部 (ア) (イ) の「 」で示した部分と同じ漢字を用いるものを
(1) ~ (3) から一つずつ選びなさい。

(ア) 「せん」たく
p2 ㊦6

(1) 「せん」めんじょ
(2) メンバーの「せん」しゅつ
(3) てつどうのろ「せん」

(イ) けい「げん」
p2 下㊦5

(1) じんこうが「げん」しょうする
(2) 「げん」みつにおこなう
(3) 「げん」ろんのじゅう

問題番号		解答類型		正答
2	2. (ア)	1	(2) と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	2. (イ)	1	(1) と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

【点字問題】 2 2.

√ 43 問い p2の文章の傍線部 1. ~3. の点字の表記に誤りがある場合は、「例」にしたがってその部分を抜き出し、正しく書き直しなさい。誤りがない場合は、「まる」と答えなさい。

「例」 私は 文章を 書き 直す。

「解答の仕方」 書き 直す → 書き直す

1. 私たちは 森林から おーくの 恩恵を 受けて います。
 2. また、 気候 変動などが 森林に 与える 影響に ついても 懸念されます。
 3. どーすれば 森林を 守れるのか、 この ことから 考えて いこうと 思っ ています。
-
-

問題番号		解答類型		正答
4	1.	1	「おおくの」と解答しているもの	◎
		2	— (該当無し)	
		3	— (該当無し)	
		4	— (該当無し)	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	2.	1	— (該当無し)	
		2	— (該当無し)	
		3	— (該当無し)	
		4	「まる」と解答しているもの	◎
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	
	3.	1	— (該当無し)	
		2	「どー すれば」と解答しているもの	◎
		3	— (該当無し)	
		4	— (該当無し)	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

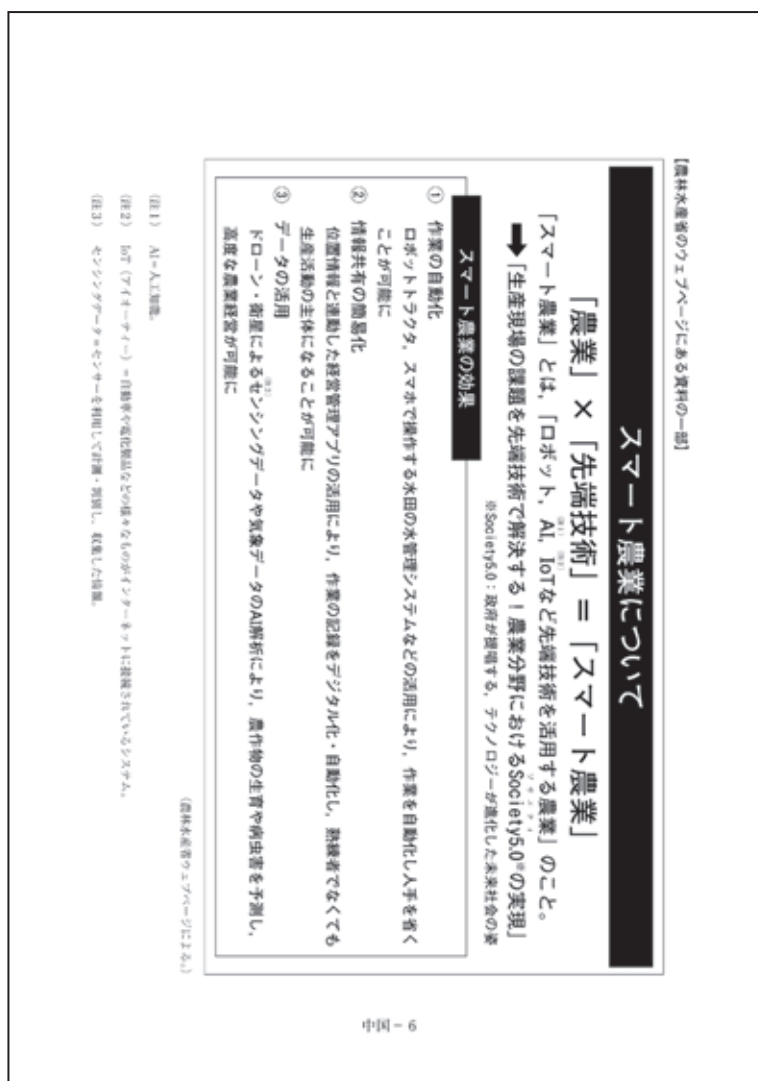
VI 擴大文字問題 (拔粹)

拡大文字問題は、通常問題と同様の趣旨・内容で作成している。ただし、弱視児童生徒の見え方に伴う負担等を軽減するため、通常問題で使用しているA4判の用紙をB4判の大きさに拡大するとともに、以下のような配慮を行っている。

- (1) 原則として文字の大きさを22ポイントとし、UDデジタル教科書体とする。
- (2) 十分な字間及び行間等に設定する。
- (3) 必要に応じて、拡大率やレイアウト等を変更する。

＜拡大文字問題における具体的な配慮例＞

【通常問題】 2



2では、以下のような配慮を行い、次のページのように変更・調整した。

- 1) 通常問題では、問題全体を横置きにしているが、拡大文字問題では内容を捉えやすいよう、縦置きにした。
- 2) 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】において、情報の捉えやすさを考慮して枠線を取った。

【農林水産省のウェブページにある資料】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマー

(注1) (2)

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、

先端技術を活用する農業」のこと。

➡「生産現場の課題を先端技術で解

ソサエティ

農業分野における Society5.0※

※ Society5.0：政府が提唱する、テ

が進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

① 作業の自動化

ロボットトラクタ、スマホで操作する水

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」と話してくれました。

動画を止める②

中国-3

〔川口さんのスピーチ〕

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと思います。

動画を止める①

中国-2

〔二人の会話の一部①〕

田中 ここで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。

川口 ありがとうございます。



田中さん 川口さん

中国-5

この言葉聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思います。

動画を止める③

中国-4

